

## 「いちよう街道」レポート集 仕様とレポート作成上の注意点

1. 出版 / 仕様 / 印刷 中央図書館主管

2. 題名 「八王子千人塾レポート集  
調べ学習 いちよう街道」

3. 仕様

(1) 中央図書館が作成する原稿

- ・表紙
- ・序文
- ・全体の目次
- ・各作品の中表紙
- ・調べる学習コンクール受賞者氏名

(2) 塾生の会が作成する原稿

- ・研究レポート (下記のレポート仕様に基づくもの)
- ・千人塾参加感想文 (会員全員)
- ・千人塾一年間の活動記録
- ・塾生の会世話人代表挨拶文

(3) レポート仕様

「いちよう街道」の仕様は以下のとおりである。

ア. 用紙サイズ

- ・A4で横書きとする。
- ・マイクロソフト社製「Word」での作成を基本とする。

イ. レポート骨子

- ・レポート名の題字
- ・名前(作成者)
- ・目次(レポート内容の大見出しのみ、  
本文のページは不要)

- ・本文
- ・参考文献

ウ. ページ数

- ・1ページ以上30ページ以内を基本とし、偶数ページとする。

(30ページを超える場合、図書館に確認)

- ・最初の1ページに題字、名前、目次を記入したのち本文を書く。
- ・図表、イラスト、写真、年表等の添付資料を含めて30ページ程度とする。
- ・本文の前の中表紙は不要とする。

- ・「図書館を使った調べる学習コンクール」応募作品は原則として全文掲載する。
- ・「いちよう街道」の総ページ数は原則300ページ以内とするが、大幅に超過する場合は原稿の縮減を依頼する場合がある。

エ．文字数、余白（原則）

- ・横書き 31字×35行（原則として）
- ・文字の大きさ 12ポイント 明朝体（原則として）
- ・余白 上下2.0cm 左右2.5cm（製本の都合上厳守）

オ．手書き原稿、または原稿用紙で提出することもできる。

（A4 縦向き横書き用紙）

この場合、文字の大きさ、余白については制約を設けないが、偶数ページとする。

（4）千人塾参加感想文

「いちよう街道」巻末に感想文を掲載するので、レポート提出にかかわらず全員が提出する。（100字程度で所定様式またはメールで提出する）

4．レポート作成上の注意点

（1）タイトル

- ・タイトルは大切。興味をひいて、読んでみたいと思わせるようなネーミングを考える。
- ・副題を付けてもよい。

（2）目次

- ・レポートの構成が一瞬でわかるように見せるため、一般的には箇条書き形式にする。

（3）「はじめに」

- ・調べようと思ったキッカケを述べる。書き手のメッセージが読み手に伝わる。

（4）本文

- ・自分が調べたこと、そして調べて分かったこと、自分で考えたことなどを書き進めていき、最後に結論をまとめて締めくくる。
- ・適度に段落を付けると読みやすい文章になる。段落とは改行の部分から次の改行の前までをいう。通常、段落の

始めは行頭から1文字下げる。

- ・句読点は「。」と「、（テン）」を使用する。
- ・年号は「和暦（西暦）」と記述する。（例：令和2年（2020））
- ・「ピリオド（．）」と「コンマ（，）」の使い分けに注意する。

国によって使い方は異なるが、日本ではピリオドは小数点のほかに英文の終止符や年月日の区切りとして使用し、コンマは主に数字の桁区切りに使われる（ただし、年号や電話番号などには区切りをつけない。）

#### （5）参考文献の明示

調べるにあたっては図書、新聞、雑誌、Web情報などを利用するが、レポートの最後に、参考・引用した資料の「著者」「図書名」「出版社」「出版年」を記載する。Webを参照した場合は「URL」を記載する。詳細は次項を参照。

### 5. 参考・引用文献リストの書き方および引用のルール

レポートを作成するとき、特に「引用」には注意が必要である。「いちょう街道」は公開された著作物であるため、著作権法の適用を受ける。「引用」に関して、著作権法上、以下のルールを遵守することが求められる。

- ① 引用する著作物は公表されたものであること
- ② 引用する必然性があること
- ③ 自分の著作物が主で、引用する著作物が従であること（正当な範囲内）
- ④ 読者が自分の著作物と他人の著作物の区別ができるように書く（区分明確性）
- ⑤ 出典を明示しなければならない（出典の明示）

では、具体的にどうするかをまとめてみる。

#### （1）参考・引用文献リストの書き方

- ・本の場合

本の最後のページにある「奥付」に書かれている情報を見て、

「著者名」、「書名」、「出版社」、「出版年」、「ページ」を書く。

（例）

新谷尚紀 『和のしきたり 日本 の 暦 と 年 中 行 事 』

日本文芸社 2007年 p238

神崎宣武 『「旬」の日本文化』 角川ソフィア文庫

角川学芸出版 2009年

小川直之 「明治改暦と年中行事」 『近代庶民生活の展開』

三一書房 1998年 (\* 図書の一部を参考にした場合)

ホイジンガ 高橋英夫訳 『ホモ・ルーデンス』 中公文庫

中央公論社 2019年

・新聞の場合

新聞のタイトルまわりの情報を見て、

(「記事を書いて人の名前」)、「新聞記事名」、「新聞紙名」

「発行年月日」、朝夕刊、(ページ) ( ) は省略可

(例)

「季節の伝統行事「回数減った」47% 手間かかり 家族も  
減り」 日本経済新聞 2014/3/3 夕刊

・Webの場合

トップページや該当ページの情報を見て、

「Webのページを作成した人・団体名」、「Webページ

名」、「Webサイト」、「変更年月日」、「URL」、「アク

セス年月日」 ( ) は省略可

(例)

厚生労働省 国民健康・栄養調査 2019

[https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou\\_eiyou\\_chou  
sa.html](https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyou_chou<br/>sa.html) (2019/8/23)

(2) 引用のルール

研究レポートでは調べたことをもとに自分の考えを展開  
するとき、一つの方法として「引用」を行う。正しく「引用」  
することによって、文章に説得力が増し、自分の考えを読み  
手にわかりやすく伝えることが可能となる。

情報や資料を引用するときには、引用した箇所を「 」で  
くくり、注番号をつけて区別する。レポートの最後に、必ず  
注番号順に、引用した情報や資料の著者名、書名、当該ペー  
ジなど(出典という)を書く。なお、出典の書き方は、「参  
考・引用文献リストの書き方」に準拠する。

例 1 : . . . アサリは 1 個で、「1 時間に 1 リットル以上の水をろ過する能力があり、海水をきれいに保つ役割をはたしている」1) という。

例 2 : . . . . わが国の総人口は約 1 億 2 千 700 万人である 2)。 . . . .

#### 引用文献

- 1) 「アサリ」 『ポプラディア 1』 ポプラ社、2002、p. 60.
- 2) 総務省 「人口推計月報：年齢（5 歳階級）、男女別推計人口」 総務省統計局  
<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/tsuki/index.htm>  
(参照 2009-4-13).

#### (別の引用文献の書き方)

「私たちはむしろ『情報過多』どころか『情報不足』の世の中を生活しているのかもしれない」(斎藤孝(2011) pp. 39-40) と自ら意識することも必要である。

「非国家的な集団が国家に対して挑戦し、その一部に攻撃を加えた、という図式になる」(最上敏樹(2004) p. 18) と述べている。

#### (引用文献)

1. 斎藤孝 『読書のチカラ』 大和書房 2011 年
2. 最上敏樹 「いま平和とは『新しい戦争の時代』に考える」 『NHK 人間講座 2004 年 10 月～11 月期』 日本放送出版協会 2004 年

なお、以下の点に注意すること。

- ① 引用元の文章の中に「 」があるときは『 』に変える。
- ② 引用元の文章が複数ページにまたがる場合は、(pp○ - ○) とする。
- ③ 図表、グラフ、写真等を引用する際は、引用した箇所のそばに出典を明記する。
- ④ 長すぎる直接引用はなるべく避ける。

引用が長い場合、引用文の前後を一行空け、引用文全体を二字下げる方法がある。

元の文章を多く引用する必要がある場合は、「間接引用」を用い、出典の明記を行うこともできる。

(元の文章)

いま、企業が求めるコミュニケーション能力は、完全にダブルバインド（二重拘束）状態にある。ダブルバインドとは、簡単に言えば二つの矛盾したコマンド（特に否定的なコマンド）が強制されている状態を言う。たとえば、「我が社は、社員の自主性を重んじる」と常日頃言われ、あるいは、何かの案件について相談に行くと「そんなことも自分で判断できんのか！いちいち相談に来るな」と言われながら、いったん事故が起これば、「重要な案件は、なんでもきちんと上司に報告しろ。なんで相談しなかったんだ」と怒られる。このような偏ったコミュニケーションが続く状態を、心理学用語でダブルバインドと呼ぶ。

※出典＝平田オリザ．わかりあえないことからーコミュニケーション能力とは何か．講談社、2012 （pp. 15 - 16）

↓

(要約)

ダブルバインドとは、自主的に判断し行動することが求められながら、事故が起これば相談をしなかったことを責められるような、偏ったコミュニケーションが続く状態のことである 1)。

1)平田オリザ 『わかりあえないことからーコミュニケーション能力とは何か』 講談社 2012 （pp. 15 - 16）

間接引用の場合、元の文章の意味を変えないよう忠実に要約し、出典の注を入れる。